2017年（平成29年）6月19日　月曜日　第593号（毎週1回発行）

APJ

本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）

パチンコ・パチスロ業界最新情報

週刊アミューズメントジャパン

Weekly Amusement Japan

2017年（平成29年）6月19日 月曜日

編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL.03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

Weekly Amusement Japan
©2017 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing
Amusement Press Japan
planning & production
Amusement Promotion
printing
Four Plus One
年間購読料27,000円（税・送料込）
本紙記事の無断転載を禁じます。

週刊アミューズメントジャパンは
毎週月曜日 Webアップ!
PDFでもご覧いただけます
アミューズメントジャパン　検索

今週の紙面から

「海物語」新領域の可能性
『CRドラム海物語』三洋　2面

甘デジに風穴を開ける
ソフィア 田中雅也 研究開発部部長 インタビュー　西陣　3面

ミリゴのDNAを継承
『CRアナザーゴッドハーデス アドベント』『ラグナロクサーガ』
ユニバーサルエンターテインメント　2面
長期稼働期待の現行機
『ワンパーワン-30』ベルコ　2面
突き進むレジェンド道
『CRドンキホーテ』豊丸産業　3面
スタッフ一丸のチーム力
D'ステーション八王子北野店　3面
パチスロサミット2017
今年は8月5日 日電協・回胴遊商　2面
Sammy　4面

本紙調査

2016年のパチンコ・パチスロ参加者 49歳以下 約7割

10代～30代の参加者 4割占める

本紙が全国の18歳から79歳を対象に調査を行った結果、昨年1年間に「1回以上」パチンコ・パチスロを遊技したことがある人の割合（参加者率）は12・4%で推計1199万人。前の年とほぼ同じだった。このうち60代以上はわずか2割にすぎない。問題は若年層の遊技頻度の低さにある。

本紙が今年1月に行った大規模な生活者調査の結果から得た各年代の遊技参加者率に、平成27年国勢調査の日本の各年代の人口を掛けて参加者人口を算出すると、最も多いのは40代で298万人、次いで30代で251万人。60代・70代の参加者率は若年層の半分以下なので、参加者全体に占める割合は2割（19・6%）に過ぎない［図］※。

パチンコ・パチスロ参加者のうち週に3日以上の頻度で遊技をしている人は約2割（19・7%）。週1日程度の頻度も約2割（21・6%）。「3カ月に1日程度～1年に1日程度」が25・4%だった。

年代別に見ると、年代が高いほど頻度が高い参加者の割合が多い。「ほぼ毎日～週に3日程度」のユーザーの割合は、20代・30代よりも60代・70代のほうがやや多い。「月に2回以上」のユーザーの割合は20代・30代ではほぼ5割だが、60代では65%、70代では8割に高まる［図］。

遊技参加者人口119万人が「ユニーク」な人数を指しているのに対して、ホールの現場ではユーザー個々の識別でなく「延べ」人数で把握している。そのため来店頻度が高い高齢者が多く見えるのだろう。「若年層が少ない」と感じるホールは、店内施策の何かが"高齢者シフト"になり、若年層を遠ざけていないか点検が必要なのではないか。レジャーの安近短化が進む中で、長い時間を投じなければ楽しめないパチンコ・パチスロ遊技は、限られた「可処分時間」の中で敬遠されている可能性もある。

現在、「常連の高齢客中心」のホールこそ危機感を持ち、若年～中年層客を増やす取り組みをしなければ、急激な稼働低下が起こる可能性がある。60代、70代のユーザーは来店頻度が高いため、顧客1人を失うと稼働への影響が多いからだ。

高齢になってから遊技を始めるユーザーはほぼいないうえ、現在の高齢ユーザーの遊技継続意向率は決して高くない。

ホールが「客数減」を感じているのは、遊技参加者人口の減少よりも遊技頻度の低下だ。前年より遊技頻度が減ったと回答した参加者は43・4%で、増えたと回答した参加者の14・8%を大きく上回る。遊技頻度が減少した参加者のほうが多いことは、すべての年代に共通していて、60代・70代でも例外ではない。

遊技業界がやらなければならないことは多岐にわたることは各所で繰り返されてきた。だが、ここで指摘したいのは、①40代以降の遊技離反を食い止めること、②特に若年層の来店頻度を高めること（来店頻度が低い層は遊技継続意向率も低い）、③若年層の新規ユーザーを増やすこと。

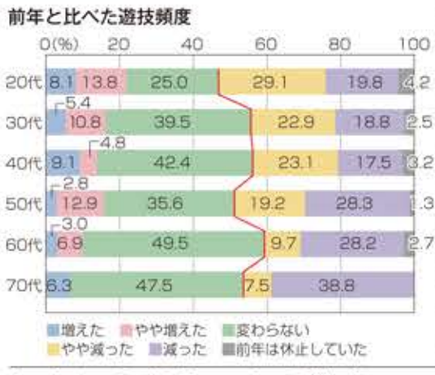
若年層の新規ユーザー獲得は、ホールの外でノンユーザーに対して働きかけることなので、遊技機開発を含めた業界全体の取り組みが必要だ。

※年代別の遊技参加者率や、遊技参加者全体に占める新規参加者（16年に初めて遊技をした人）の割合は本紙2月20日号で既報。

参加者人口（年1回以上遊技した人）

遊技頻度

前年と比べた遊技頻度



日電協 総会
佐野理事長を再任

日本電動式遊技機工業協同組合は9日、パレスホテル東京で通常総会を開催。任期満了に伴う役員改選で佐野慎一理事長（山佐）を再任した。筆頭副理事長に兼次民喜氏（オリンピア）、副理事長に片田富穂氏（パイオニア）と小林友也氏（北電子）が就任した。

佐野理事長は総会後の記者会見で、「新体制となったが、新旧1人の交代があった以外はすべて再任。業界を取り巻く環境は依然として厳しいが、新体制のもと、組合員が力を合わせて業界の発展に力を尽くしていきたい」と抱負を語った。最優先でやるべき課題についての記者からの質問に「5・9号機の基準と6号機の規則改正のふたつを一生懸命やっていきたい」と述べた。5・9号機の見通しについては「作っているうちに創意工夫があり、「コレはどうなんだ」という案件が続出している。早急にどうするのかを決めることが最初の仕事」と語った。

佐野理事長

日電協新役員（敬称略）

理事長　佐野慎一（再任）
筆頭副理事長　兼次民喜（再任）
副理事長　片田富穂（再任）
副理事長　小林友也（再任）
専務理事　原田宗宏（員外・再任）
理事　国本錦雄（再任）
理事　岩堀和男（再任）
理事　信田裕一郎（新任）
理事　平野薫美（員外・再任・事務局長事務取扱）
監事　國吉和宏（再任）
監事　大泉秀治（再任）
相談役　里見　治
相談役　石原昌幸（岐阜県遊協理事長）

全商協 総会
新会長に林和宏氏

全国遊技機商業協同組合連合会は13日、ヒルトン東京お台場で通常総会を開催。任期満了に伴う役員改選で林和宏氏（中部遊商）を新たな会長に、草加和徳氏を筆頭副会長にそれぞれ選任した。

林会長は就任の挨拶で「今までと同様に関係団体と良好な関係を築いていきたい。私自身も取扱主任者。現場で働く取扱主任者の労働環境をよく

林会長

会長　林　和宏（中部）
筆頭副会長　草加和徳（関西）
副会長兼会計理事　畠山和生（北海道）
副会長　高橋一則（東北）
副会長　中村昌勇（東日本）
副会長　松原陽輔（中国）
副会長　日野泰昌（四国）
副会長　山本龍彦（九州）

全日遊連中部地区協議会 総会
依存問題で協力要請

全日遊連中部地区協議会は7日、三重県の四日市都ホテルで定時総会を開催。任期満了に伴う役員改選で大野春光会長（岐阜県遊協理事長）を再任した。

冒頭挨拶で大野会長は、「リーダーたるもの、5年先、10年先のビジョンを語るべきだが、業界は今2週間先のことも確定できない遊技機からの脱却など、業界としていまやらなければならないことをしっかりやって、実績を積み重ねていく必要がある」と語った。

また、兵遊協の暴力団排除活動が評価され、第12回社会貢献大賞の優秀賞に内定したことを報告した。

大野会長

兵庫県遊協 総会
のめり込み対策を要請

兵庫県遊技業協同組合は9日、神戸市のANAクラウンプラザホテル兵庫で総会を開催。

岡本芳邦理事長は冒頭挨拶で、のめり込み対策が業界の最優先課題だとし、「兵遊協として、これまで組合員の皆様に「のめり込み対策等のチェックシート」の効果的な活用をお願いしてきたが、営業者の皆様には、従業員一人ひとりに至るまで対策の重要性を浸透させてほしい」と改めて徹底を要請。「カジノと一線を画すため、のめり込み対策をはじめ、射幸性の高い遊技機からの脱却など、業界としていまやらなければならないことをしっかりやって、実績を積み重ねていく必要がある」と語った。

また、兵遊協の暴力団排除活動が評価され、第12回社会貢献大賞の優秀賞に内定したことを報告した。

岡本理事長

千葉県遊協 総会
田中理事長を再任

千葉県遊技業協同組合は9日、千葉市中央区の京成ホテルミラマーレで総会を開催。任期満了に伴う役員改選で田中幸也理事長を再任した。

総会前には、同組合が手がける社会貢献事業「夢まるふぁんど」を通じた社会福祉団体などに対する寄付金の贈呈式が行われた。

挨拶した田中理事長は、「検定機と性能が異なる可能性のあるパチンコ機問題では、皆様の協力によって撤去が完了したが、パチスロの設置比率50%以下については県内23店舗で達成できなかった。これら店舗には中古機移動書類の発給が停止されているが、今年12月の30%以下については推移を見守って行く必要がある。またネットなどの不確かな情報に影響を受けるということがないよう冷静な対応をお願いしたい」と注意を呼びかけた。

田中理事長

奈良県遊協 総会
相羽理事長を再任

奈良県遊技業協同組合は7日、奈良市内で通常総会を開催。任期満了に伴う役員改選で相羽宗一郎理事長が再選した。

相羽理事長は冒頭の挨拶で、「依存問題のほとんどがパチンコ・パチスロに起因。規制が必要」という報道の論調に対し」議論のすりかえ」と疑問を呈し、「厳しい規制になるかもしれないが業界存続のための施策の一環と捉えてほしい」と組合員に理解と協力を求めた。

行政講話は、奈良県警察本部生活安全部許認可審査室の今西寿広室長。依存問題等への奈良県遊協の取組みを評価しつつさらなる努力を促した。

また、年間売上8億円というカリスマ旅行添乗員、平田進也氏が講演。自らの経験をホール営業に当てはめ、「自分や自店のファンをつくることが売上げアップの秘訣」と説いた。

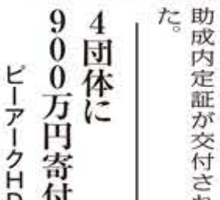
相羽理事長

埼玉県遊協 総会
山田理事長を再任

埼玉県遊技業協同組合は7日、さいたま市内のラフレさいたまで通常総会を開催。任期満了に伴う役員改選で山田茂則理事長を再任した。

冒頭挨拶で新基準に該当しない遊技機及び高射幸性パチスロ遊技機の撤去、県遊協50周年記念事業、依存問題対策について言及した山田理事長は、今期で12期目。改選後の挨拶では「業界が曲がり角であるのはいつものことだが、大きな節目である最後の1期2年を全力で務めたい」と述べた。

50周年記念事業では、県内に30数カ所ある子ども食堂への支援を本格的に始動させる。総会開始前には「さいたま子ども食堂応援キャンペーン2017」を実施する埼玉新聞社の小川秀樹社長に、全日本社会貢献団体機構からの200万円の助成内定証が交付された。

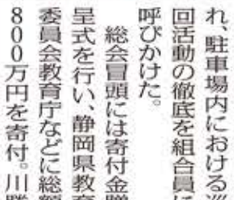

山田理事長

静岡県遊協 総会
組合挙げのめり込み対策を

静岡県遊技業協同組合は8日、ホテルセンチュリー静岡で通常総会を開催した。

葉山勝之前理事長の退任に伴い、3月28日の理事会で新たに理事長に就いた冨田直樹氏が挨拶。IR促進法を契機に注目される業界ののめり込み防止と依存問題解消のために尽力したい」と語った。また山口県内で発生した乳児の車内放置死亡事故について触れ、駐車場内における巡回活動の徹底を組合員に呼びかけた。

総会冒頭には寄付金贈呈式を行い、静岡県教育委員会教育庁などに総額800万円を寄付。川勝平太静岡県知事から静岡県遊協に感謝状が贈られた。


冨田理事長

聴導犬育成を支援
アプリイ

静岡県を中心にホール12店舗を運営するアプリイは5月11日、2016年4月1日から17年3月31日の間にアプリイ各店舗の来店客から募った玉・メダルや、同社スタッフからの寄付など総額200万円を社会福祉法人日本聴導犬協会に寄贈した。

当日は、アプリイの山本芳司代表ほか新入社員約20人が社会福祉法人日本聴導犬協会を訪問し、目録を手渡した。

日本聴導犬協会の聴導犬訓練センターを訪問した山本社長と新入社員

目録を贈呈するピーくんと有森理事長（右）

4団体に900万円寄付
ピーアークHD

ピーアークホールディングスは3月31日、2016年に設立したピーくん財団を通じて応援している4団体に計900万円を寄贈した。寄贈先は、世界の子どもにワクチンを 日本委員会、スペシャルオリンピックス日本（SON）、ピーくん+1の森プロジェクト（ガイア・イニシアティブ）、カタリバ（コラボ・スクール）。

このうちの一つ、SONへの目録贈呈式が4月20日に同社で行われた。ピーくんが有森裕子理事長に目録を手渡すと、有森理事長は深々と謝意を述べた。

新 集客の素
連載・第42回

▼▼▼ 遊びをクリエイトするプランナーの視点 ▲▲▲

パチンコの魅力

池澤守企画 代表取締役　池澤 守

いけざわ・まもる
（株）池澤守企画代表取締役/テーマパークプロデューサー。1979年ナムコ入社。都市型テーマパーク「ナムコ・ワンダーエッグ」「ナムコ・ナンジャタウン」、フードテーマパーク「横濱カレーミュージアム」等、数々の話題施設を成功させてきた。2015年に独立し企画会社を設立。オンリーワン型テーマ空間の企画、プロデュース、コンサルティングを手掛けている。

強まる規制によって、花形のMAXタイプ機がホールから消え去りました。この結果、短期的にはパチンコで得られる刺激と魅力が大幅に低下しましたが、中長期的にはチャンスが到来したと捉えるべきです。

私はパチンコの魅力とは、「リスクテイクの報酬」と「ランダムな報酬」の絶妙なバランスがもたらす面白さにある」と定義しています。

リスクテイク（危険を冒すこと）の報酬」とは、危険を切り抜け勝利の達成感に包まれたときに味わう喜びです。英国の動物学者デズモンド・モリスは、人間心理の多くが100万年以上にわたる狩猟生活の中で形成されたものだと断定しています。リスクテイクの欲求も同様です。ひ弱な人類が獰猛な獣を殺戮するハンターと化すには、危険に立ち向かう勇気が必要だったからです。危険を冒して勝利を得ることに無上の喜びを覚える"ハンターの遺伝子"は、今も私たちの中に受け継がれています。

原始時代と比べると平穏過ぎる現代では、狩猟の代償行為として、ジェットコースターやお化け屋敷、ホラー映画など、危険を擬似体験できる"リスクテイクレジャー"が求められるようになりました。命の次に大事なお金をリスクにさらして大当たりを射止めようとするパチンコは、リスクテイクレジャーの代表格とも言える存在です。

一方、"ランダムな報酬"とは、思い通りにならない偶然や確率の世界を自分が支配できたと思えたときに味わう本能的な喜びです。米国の心理学者バラス・スキナーは、「人は報酬が必ず得られていた場合にはそれがなくなるとすぐにやめてしまう」が、「不規則にしか得られない報酬で動機付けられた場合にはそれが途絶えた後も行動が長期間持続する」という心理法則を発見しました。

この心理こそが確率が繰り成す気まぐれ"を楽しむパチンコという遊びを動機付けているのです。偶然性によってもたらされる大当たりの興奮を幾度か味わうと、それが時たましか得られないにも関わらず挑み続けるようになるのです。

ランダムな報酬は、大当たりによる大量出玉の獲得という成功体験の積み重ねで強化され、習慣化されるため、パチンコファンの新規参入と継続には高頻度での大当たりと勝ち体験が不可欠です。ところが、もう一方のリスクテイクの報酬は、立ち向かう危険が大きいほど勝利の快感も大きくなるという性質を備えているため、危険を冒してでも一獲千金を夢見る一か八かの鉄火場のような方向へとエスカレートしがちです。MAXタイプなどの"低確率爆裂機"が主流になっていた近年のパチンコは、ホールを賭博場に変えかねない危険をはらんでいたのです。

娯楽産業の一翼を担うパチンコは、元来がランダムな報酬を機軸にしたエンターテインメントとして育むべき存在です。"一獲千金"が期待できた高射幸性遊技機の撤去によるリスクテイク報酬の低減は、短期的にはパチンコの魅力を大きく損ないましたが、中長期的にはエンターテインメント化とファンの安定化をもたらす効果があるはずです。

パチンコの未来のために、機械のみならず、接客、空間、景品等、全ての魅力をエンターテインメントで再構築できる格好のチャンスがやってきたのです。